

○オノアクト点滴静注用, ○コアベータ静注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】ランジオロール塩酸塩 Landiolol Hydrochloride 【分類】静注用β1遮断剤

【単位】○50mg/V, ▼150mg/V [オノアクト], ○12.5mg/V [コアベータ]

【常用量】■コアベータ：1回0.125mg/kgを1分間で静脈内投与

■オノアクト：

●手術時0.125mg/kg/minで1分間ivし、0.04mg/kg/minで持続投与

●手術後、0.06mg/kg/minで1分間ivし、0.02mg/kg/minで持続投与 [最大0.04mg/kg/min]

●心機能低下例における心房細動、心房粗動：1μg/kg/minで持続投与を開始し、心拍数、血圧を測定し1~10μg/kg/minの用量で適宜調節 [PhaseIIIまでの平均投与量は5.53γ] ※効果不十分ならジギタリス追加検討

【用法】■静注、持続静注

■オノアクト：50mgを5mL以上（150mgを15mL以上）の生食等で溶解

■コアベータ：12.5mgを1.25mL以上の生食等で溶解し、投与終了の4~7分後を目安に冠動脈CTを開始

【透析患者への投与方法】慎重投与であるが、減量の必要なし (1)

【保存期CKD患者への投与方法】慎重投与であるが、減量の必要なし (1) 【その他の報告】CKD G1~4のいずれのステージでも心房細動・粗動の心拍数コントロールにジゴキシンよりも優れる (Kinugawa K, et al: Adv Ther 31: 426-39, 2014)

【特徴】静注用β1選択的遮断剤。MSAなし。ISAなし。コアベータは冠動脈の造影CTにおける高心拍数時の描出能の改善に適用される。

【主な副作用・毒性】ショック、血圧低下、徐脈、心停止、喘息、肝機能障害など

【代謝】加水分解にて代謝され、肝血流律速型 (1) 血漿中では偽コリンエステラーゼの関与が不定 (1) 代謝物の活性は低い (1) 肝機能障害患者では血中濃度が高くなるので、脈拍、血圧を慎重に観察する必要がある (Takahata T, et al: Drugs R D 6: 385-94, 2005)

【排泄】尿中未変化体排泄率9.9% [iv, 24hrまで] (1) カルボン酸体として尿中に65.4%回収 [iv, 24hrまで] (1) 【CL】31.1~38.0mL/min/kg (1) 36.6mL/min/kg

【PPK解析】(Honda N, et al: Drug Metab Pharmacokinet 23: 447-455, 2008) 肝血流には依存しない (Matsumoto N, et al: Biol Pharm Bull 35: 1655-60, 2012)

【t1/2】3.5min (1) 2.3~4.0min (Atarashi H, et al: Clin Pharmacol Ther 68: 143-50, 2000)

【蛋白結合率】1.5~7% (1)

【Vd】130~159mL/kg (1) V1=101 mL/kg, Vp=55.6 mL/kg 【PPK解析】(Honda N, et al: Drug Metab Pharmacokinet 23: 447-55, 2008)

【MW】546.05

【透析性】透析されると思われるが、消失が速く、透析による消失への寄与は小さい (5) 資料なし (1)

【O/W係数】0.56 [1-オクタノール/buffer, pH7.0] (1) 【pKa】8.1 【薬物動態】心拍数の低下度に性差はないが、高齢者では作用が強く発現する (Mizuno J, et al: Eur J Clin Pharmacol 63: 243-52, 2007)

【相互作用】交感神経抑制剤、徐脈を誘発する薬剤との併用注意 (1)

【主な臨床報告】心機能低下例の心房細動発作にはランジオロールがジゴキシンより優れる (Nagai R, et al: Circ J 77: 908-16, 2013)

【備考】プロポフォールの効果は心拍出量に依存するため、ランジオロール併用によりプロポフォールの全麻導入必要量が低下する (Takizawa D, et al: Fundam Clin Pharmacol 19: 597-9, 2005) オノアクトは経口β遮断剤が投与可能になるまで持続投与可能であるが費用対効果を考慮すること (5)

【更新日】20220224

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、

直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。